

[参考資料・リリース日本語訳]

報道関係各位

2003年4月17日

ノバルティス 2003年度第1四半期業績 厳しい経済状況にもかかわらず、堅調な成長を達成

- パーゼル発、2003年4月15日 -

- グループ全体の売り上げは、米ドルベースで21%増(現地通貨ベースで13%増)を達成。医薬品は米ドルベースで18%増(現地通貨ベースで10%増)、ジェネリックは米ドルベースで98%増(現地通貨ベースで83%増)。
- グループ全体の営業利益は、生産性向上などにより24%増。
- 純利益は、2002年の関連会社ロシュ・ホールディングAGの損失の影響により、前年同期レベル。この分を除くと27%増。
- 研究開発費の増大と事業開発/ライセンスの成功によって、開発パイプラインはさらに魅力的に刷新。

主要連結財務データ

	2003年度第1四半期			2002年度第1四半期			増減	
	百万米ドル	億円	対売上%	百万米ドル	億円	対売上%	米ドルベース	現地通貨ベース
グループ全体の売上	5 721	6 808		4 742	5 643		21	13
営業利益	1 351	1 608	23.6	1 086	1 292	22.9	24	
純利益	1 063	1 265	18.6	1 064	1 266	22.4	0	
1株当たり利益 (米ドル・円)	0.43	51.17		0.42	49.98		2	
社員数(人)	77 163			72 631			6	

換算レート：2003年 1米ドル = 119円、2002年 1米ドル = 119円

本リリースで用いられている日本円表示の金額は、すべて便宜的に2003年、2002年ともに119円の為替レートで米ドルを日本円に換算したものである。これらの換算金額は、このレートまたはその他のレートで米ドルの額を実際に日本円に換えられる額を示すものと解してはならない。

パーゼル発、2003年4月15日

ノバルティスは2003年第1四半期の業績について、初めて米ドル建てで発表しました。米国での売り上げはノバルティス全体の43%を占めており、米国におけるビジネスが引き続き戦略的に重要であると考えているためです。ノバルティスの会長兼最高経営責任者のダニエル・バセラは、次のように述べています。「産業界、金融界、ひいては私たちの社会全体に重くのしかかる世界の諸問題にもかか

ならず、ノバルティスが堅調な成長を維持できたことを非常にうれしく思います。実質的にすべてのビジネスで、非常に好調であった前年同期を上回る大幅な売り上げの伸びを達成しました。2002年のロシュの損失に関連する一時的な支出にも関わらず、好調な営業利益によって、過去最高であった昨年レベルの純利益を維持することができました。私たちは継続的に将来に向けた投資を行い、魅力的なライセンス活動と米国ケンブリッジのバイオメディカルリサーチセンター設立によって、新製品創製のフローを確保していきます。

グループ全体の売り上げは 21%増の 57 億ドル

グループ全体の売り上げは、特に医薬品とジェネリックにおける堅調な業績に牽引され、21%増となりました。現地通貨ベースでの売り上げ増は13%で、その9%は販売量の増加によるものです。買収したビジネスによる増加は、レク社の買収が最も顕著で3%、さらに価格上昇による貢献は1%でした。現地通貨から米ドルへの換算の影響は、8パーセントとなりました。

営業利益は 24%増の 14 億ドル

継続的な生産性の向上などによって売上原価が1.5%削減され、対売上比が23.8%となりました。研究開発費は将来のイノベーションを強化するために34%増加され、対売上比が14.7%となりました。一方、新製品の上市を促進するための販売費が20%増加しましたが、わずかに売り上げの伸び率を下回ったため、対売上比は32.0%にとどまりました。一般管理費は予想を下回りました。結果として、営業利益は売り上げの伸びをわずかに上回り14億ドル、営業利益率は23.6%に達しました。

純利益は 11 億ドルと安定

関連会社からの純利益は2億4,600万ドルの損失となりますが、2002年の関連会社ロシュの損失の影響を除くと、純利益は27%増となります。困難な金融状況と非常に低いレベルの流動資産であったにもかかわらず、純金融収益は1億1,800万ドル(20%減)に達しました。

社員

社員数は主にレク社の買収により、第1四半期で6%増となりました。

2003年度の見通し(予想しがたい要因を除く)

ノバルティスは、引き続きビジネスの中核となる医薬品、主要な治療領域とブランドにフォーカスしていきます。これによって、医薬品およびグループ全体の売り上げは、2003年も現地通貨ベースでおよそ10%の成長が見込まれています。

高水準の成長を維持するために、積極的な投資戦略を実行していきます。2003年には、医薬品の研究への投資を20%以上増加することが計画されていて、この比率は売り上げの伸びを上回るものです。したがって2003年には、医薬品の営業利益率は減少することが見込まれています。さらに、より魅力的な成長の機会を獲得するために、事業開発およびライセンス活動が大幅に促進されました。

研究への投資の増大と、チャレンジングな経済環境と低レベルの流動資産による金融収益レベルの低下が予想されるにもかかわらず、予想しがたい要因を除けば、営業利益と純利益はともに前年レベルを上回ると見込まれています。

部門およびビジネスユニット別売り上げ

	2003 年度第 1 四半期		2002 年度第 1 四半期		増減	
	百万 米ドル	億円	百万 米ドル	億円	米ドル ベース (%)	現地通貨 ベース (%)
医薬品	3 609	4 295	3 068	3 651	18	10
コンシューマーヘルス	2 112	2 513	1 674	1 992	26	18
ジェネリック	761	906	385	458	98	83
OTC	401	477	340	405	18	8
アニマルヘルス	157	187	150	179	5	0
医療用栄養食品	190	226	163	194	17	4
乳幼児用栄養食品	307	365	323	384	-5	-2
チバビジョン	296	352	255	303	16	7
コンシューマーヘルス (継 続)	2 112	2 513	1 616	1 923	31	22
健康機能性食品 (分離)			58	69		
合計	5 721	6 808	4 742	5 643	21	13

部門およびビジネスユニット別営業利益

	2003 年度第 1 四半期			2002 年度第 1 四半期			増減
	百万 米ドル	億円	対売 上%	百万 米ドル	億円	対売 上%	現地通貨 ベース (%)
医薬品	1 100	1 309	30.5	861	1 025	28.1	28
コンシューマーヘルス	277	330	13.1	208	248	12.4	33
ジェネリック	112	133	14.7	55	65	14.3	104
OTC	52	62	13.0	32	39	9.4	63
アニマルヘルス	23	27	14.6	25	30	16.7	-8
医療用栄養食品	20	24	10.5	6	7	3.7	233
乳幼児用栄養食品	45	54	14.7	59	70	18.3	-24
チバビジョン	29	35	9.8	23	27	9.0	26
部門別管理コスト	-4	-5					
コンシューマーヘルス (継 続)	277	330	13.1	200	238	12.4	39
健康機能性食品 (分離)				8	10		
コーポレート	-26	-31		17	20		
合計	1 351	1 608	23.6	1 086	1 292	22.9	24

医薬品

売り上げ

ノバルティスの中核である医薬品ビジネスの売り上げは、主力となる循環器とオンコロジー領域の好調が牽引力となり、18%増（現地通貨ベースで10%増）を記録し36億ドルを達成しました。この売り上げ増は、「ディオバン」「ロトレル」「レスコール/ローコール」「グリベック」「ゾメタ」の好業績によるもので、さらに「エリデール」「ゼルノーム」の上市の成功が後押ししました。

主要なマーケットについては、米国では、成長の牽引力となる主力製品の好業績と最近上市した製品が大いに貢献し、売り上げが16%増と引き続き堅調な成長を

達成しました。日本では、再び売り上げがダイナミックな伸びを示しました。一方ヨーロッパでは、イタリアとスペインにおける堅調な販売量の増加が、数カ国における価格抑制の影響やドイツでの強制的なジェネリック製品への置き換え、ドイツと英国における並行輸入などの影響を相殺しました。

営業利益

医薬品の堅調な売り上げ成長が営業利益を押し上げ、28%増の11億ドルを達成しました。売上原価は生産性向上などにより、1.8%削減されました。将来の革新的な研究を強化し、ケンブリッジの新研究施設の設立など新たな研究戦略の実施をサポートするために、研究開発費は売り上げの伸びを上回る増加となり、対売上比は19.1%となりました。販売費については、米国における「ゼルノーム」へのサポートとヨーロッパでの「エリデル」の上市推進のため販促活動の拡大により、売り上げの伸びと同レベルの増加が見られました。全体として投資での増加は、1月に主力以外の製品ラインを売却したことによる1億7,800万ドルの一時的な収益や、一般管理費の削減によって相殺された分を上回りました。全体的に、2003年度第1四半期の営業利益率は、2002年同期の28.1%から30.5%に改善されました。

ハイライト(特別に記載のない限り、売り上げ増は現地通貨ベースで表示)

プライマリーケア

ノバルティスの最も重要な高血圧症治療薬「**ディオバン**」(49%増、米国：60%増) は、世界的にこのカテゴリーにおいて、引き続き最も速い成長を遂げました。アンジオテンシン 受容体ブロッカー (ARB) の心臓および腎臓に対する保護作用の認知度が高まったことにより、ARB市場が拡大する中であって、「ディオバン」はそのマーケットシェアを伸ばしました。米国ではディオバンに対する需要が着実に増え、トータル処方量が30%以上 (IMSデータ。2003年1-2月累計) も伸び、このカテゴリーにおけるリーディングポジションをさらに強固なものとししました。その他の地域では、ドイツにおいて「**コディオバン**」の高用量製剤 (160/25) が成功裏に上市されました。

高血圧症治療薬「**ロトレル**」(米国：33%増) は、AEC阻害剤での血圧コントロールが十分でなかった高血圧症の患者のロトレルへの切り替えプログラムに支えられ、新規およびトータル処方のシェアを拡大し、マーケットシェアを堅調に伸ばしました。

高コレステロール血症治療薬「**レスコール/ローコール**」(22%増、米国：21%増) の売り上げは、特にその優れた安全性と有効性のプロフィールと、XL錠 (徐放性製剤) の簡便性が支持され、引き続き堅調な売り上げ成長を達成しました。また3月末には、LIPS¹⁾の追加データが発表され、進行した冠動脈疾患患者における心イベントリスクを「レスコール/ローコール」が顕著に減少することが示されました。

¹⁾ LIPS : Lescol Intervention Prevention Study の略。経皮的冠インターベンションが初めて施行された患者を対象に、スタチンによるコレステロール低下療法が、将来の致死性あるいは非致死性の心イベントを予防することを示すために、プロスペクティブにデザインされた最初のプラセボ比較試験。

抗真菌薬「**ラミシール**」(14%増、米国：41%増) は、米国でのトータル処方および新規処方が安定的に推移したため、経口の抗真菌薬セグメントでトップのマーケ

ットシェアを維持しました。米国における売り上げは、2002年に比べて、卸在庫の季節的な減少が少なかったことによるものです。新たな DTC (Direct-To-Consumer) と専門医への啓発キャンペーンが、第 2 四半期の実施に向けて完成しました。

湿疹治療薬「**エリデル**」は、2002年3月に最初に上市されて以来、米国では湿疹治療の処方薬として No.1 ブランドとなりました。米国で1月に実施した DTC キャンペーンの成功に後押しされ、米国での新規処方市場の2倍の勢いで成長を続け、第1四半期の全世界での売り上げは4,700万ドルに到達しました。最近ではスイスでも承認を取得し、現在世界の20以上の市場で販売されています。

便秘型の過敏性腸症候群治療薬「**ゼルノーム / ゼルマック**」は、現在すでに29カ国で販売され、第1四半期の売り上げは2,000万ドルに達しました。米国では、マネジドケアの90%以上で保険の払い戻しが行われています。また12月時点では、ターゲットとする胃腸病専門医の54%で処方されていましたが、現時点ではさらにアップして68%に達しました。

メディカルニーズや専門医への啓発、疾患に対する認知度向上活動などの結果、1月以来、トータル処方市場は月ベースでの比較で30%以上も増加しました。また患者の75%が診断や治療を受けていないという現状に着目して、さらにこのカテゴリーを確立するために、現在、DTC キャンペーンの実施を準備中です。

オンコロジー

ノバルティスのオンコロジービジネスはさらにマーケットシェアを拡大し、現地通貨ベースで27%増(米ドルベースで37%増)を達成しました。

慢性骨髄性白血病(CML)と消化管間質腫瘍(GIST)の治療薬「**グリベック**」(95%増、米国:42%増)は、12月末にヨーロッパでCMLの初発患者に対する第一選択薬として承認されたことにより、引き続き予想を大きく上回る成長を達成しました。保険の払い戻しプロセスでさらに大きな進展があり、第1四半期で最も顕著であったのは韓国でした。

悪性腫瘍骨転移に伴う骨合併症の治療薬「**ゾメタ**」(196%増、米国:168%増)は、悪性腫瘍の骨転移治療のために最も多く処方されるビスフォスフォネート注射剤となりました。引き続きダイナミックな成長を達成し、売り上げは2億700万ドルに到達しました。最も効果のあるビスフォスフォネートとして、「ゾメタ」はすでに「アレディア」の売り上げの80%以上を獲得しました。「アレディア」/「ゾメタ」を併せたフランチャイズの成長は28%増となりました。さらに簡便な「ゾメタ」の新しい液剤が、3月に米国とヨーロッパで承認を取得しました。一方、欧州医薬品委員会(CPMP)は、悪性腫瘍骨転移に伴う骨合併症の予防における長期試験データを含む、添付文書改訂について承認勧告を行いました。

末端肥大症およびカルチノイド症候群の治療薬「**サンドスタチン**」の売り上げは、全体として2%増(米国:4%増)で1億6,400万ドルとなりました。より簡便で、1ヵ月1回投与の徐放性製剤LARの継続的な成長(13%増、米国:18%増)が牽引力となりました。

ホルモン過敏性の閉経後進行性乳がん治療の第一選択薬「**フェマーラ**」の売り上げは、23%増(米国:21%増)で5,600万ドルとなりました。補助療法でのデータが得られるまでは、売り上げの伸びは緩やかに推移するものと見込まれます。日本で

の承認が遅れていますが、一方で FDA は、米国における生存率および安全性データがアップデートされた、新たな添付文書を承認しました。

眼科

眼科ビジネスは「ピスダイン」の好調に牽引され、売上げが現地通貨ベースで4%増（米ドルベースで14%増）となりました。強制的な価格抑制、保険払い戻しに関する問題、2002年の第4四半期における卸在庫の影響にもかかわらず、日本でのザジテン点眼液の好調など、他の眼科領域ブランドが好業績を達成しました。

加齢黄斑変性の治療薬「ピスダイン」（12%増）は、最近の上市と保険払い戻しプロセスでの進展によって、引き続き売上げを伸ばしました。

移植・免疫

移植・免疫ビジネスユニットの売上げは、ジェネリックや他のブランドの競合品による「ネオーラル」への攻勢に対してそのポジションを守り、現地通貨ベースで19%減（米ドルベースで11%減）となりました。

免疫抑制剤「ネオーラル / サンディミュン」の売上げ（19%減）は、2002年における米国での卸在庫と、2002年第3四半期の米国での「サンディミュン」への新たなジェネリックの参入によって減少しました。ヨーロッパにおいては、ジェネリックの参入があったのはドイツだけでした。「ネオーラル」の売上げは、日本における勢いの持続と、全世界で2万人以上の移植者に対して著明な治療効果をもたらす、C2 モニタリングシステムの実行が成功したことにより支えられました。

「ネオーラル」を補完し、その臨床効果を最適化する目的で開発された「シムレクト」は、日本での上市の成功により、売上げは2%増を記録しました。日本において「シムレクト」は、主要な腎移植医療機関の60%以上で使用されています。

コンシューマーヘルス部門

ジェネリック

ジェネリックの売上げはダイナミックな成長を遂げ、98%増（現地通貨ベースで83%増）で7億6,100万ドルを記録しました。米国における小売りフランチャイズの卓越した好業績に牽引されたものです。また、レク社の買収も成長を後押しし、売上げ増の47%に貢献しています。

OTC

OTC薬（一般薬）の売上げは18%増（現地通貨ベースで8%増）と市場の伸びを大きく上回り、4億100万ドルとなりました。主な牽引力となったのは「ボルトレン」「ラミシール」「ニコチネル/ハビトロール」「オトリピン」「カルシウムサンド」の5つのグローバルブランドの継続する堅調な業績です。これらの5ブランドの売上げは、総じて現地通貨ベースで10%増の成長を達成しました。また抗真菌薬「ラミシール」、禁煙補助薬「ニコチネル/ハビトロール」は、すべての地域において売上げを伸ばしました。

アニマルヘルス

アニマルヘルスの売り上げは、前年同期の非常に高い業績からさらに5%増（現地通貨ベースで0%増）の1億5,700万ドルとなりました。主要マーケットにおける経済的不安定と異常気象の影響により、今期当初の業績の伸びは緩慢でしたが、期末に向かうにしたがって売り上げの伸びはダイナミックに加速されました。

コンパニオンアニマルビジネスは、イヌの心臓病および腎臓病の治療薬「フォルテコール」の売り上げの二桁成長に牽引され、また昨年末に上市された、多くの新製品によるマーケットシェア獲得により補完され、堅調な成長を達成しました。2月には、イヌの鎮痛薬「デラマックス」が米国で承認され、イヌの関節症に伴う炎症治療と慢性疼痛に適応が拡大されました。

畜産動物用ビジネスの売り上げは、ラテンアメリカ地域とアジア地域での好業績の継続により堅調な成長を遂げました。これは、オーストラリアでの長引く干ばつの畜産ビジネスに及ぼす影響と、ヨーロッパの数カ国と米国における市場の落ち込みによる影響を相殺しました。

医療用栄養食品

医療用栄養食品の売り上げは、17%増（現地通貨ベースで4%増）で1億9,000万ドルとなりました。

乳幼児用栄養食品

乳幼児用栄養食品の売り上げは、ヨーロッパにおける非主力ビジネスの売却と売り上げからの追加の現金割引分が売り上げから控除されたことにより、5%減（現地通貨ベースで2%減）で3億700万ドルとなりました。

チバビジョン

チバビジョンの売り上げは、16%増（現地通貨ベースで7%増）で2億9,600万ドルとなりました。コンタクトレンズビジネスにおいて、販売量の増大で好調な業績が持続し、また、レンズケア製品および眼科用サージカルビジネスでの売り上げが増加したことが貢献しています。

「フォーカスデイリーズ（1日使い捨てコンタクトレンズ）」と「フォーカス・ナイト＆デイ（30日連続装用コンタクトレンズ）」は引き続きダイナミックな業績を達成し、特にヨーロッパと北米での売り上げは、二桁成長を達成しました。カラーコンタクトレンズ「フレッシュルック」は、より進化した製品の市場導入により、カテゴリーにおいて引き続き強力なリーダーとしてのポジションを確保しました。

レンズケア製品ビジネスは、北米での売り上げ成長と日本での「フレッシュルック」の引き続きの成功により、好転しています。

眼科用サージカルビジネスは、最近上市された多くの新製品の売り上げ増に支えられ、市場の伸びを上回るペースで着実な成長を遂げました。

上記の発表には、現時点での将来への予想と期待が一部含まれております。従って、その内容に関しては、また将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、

将来の結果が現在の予想と異なる可能性があることをご了解ください。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けております Form 20-F をご参照ください。

ノバルティスは、医薬品とコンシューマーヘルスにおける世界的リーダーです。ノバルティスグループ全体の2002年度の売り上げは209億ドル(約2兆4,871億円)で、純利益は47億ドル(約5,593億円)、研究開発への投資は約28億ドル(約3,332億円)でした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約77,200人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。

詳細はインターネットをご覧ください <http://www.novartis.com>

2003 年の業績発表予定

7月21日	上半期および第2四半期業績発表
10月20日	9ヵ月および第3四半期業績発表
11月19日	R&D Day

2003 年度第 1 四半期売り上げトップ20 製品

製品名	適応	百万		前年比%	
		米ドル	億円	米ドルベース	現地通貨ベース
ディオバン/コディオバン	高血圧症	565	672	58	49
ネオーラル/サンディミュン	移植	241	287	-10	-19
グリベック	慢性骨髄性白血病	232	276	113	95
ゾメタ	悪性腫瘍による骨合併症	207	246	209	196
ロトレル	高血圧症	177	211	33	33
ラミシール(グループ)	真菌症	173	206	23	14
レスコール/ローコール	高コレステロール血症	171	203	33	22
サンドスタチン(グループ)	末端肥大症	164	195	10	2
ボルトレン(グループ)	炎症/疼痛	132	157	-6	-10
チバセン/ロテンシン	高血圧症	107	127	-7	-10
トップ10 製品トータル		2 169	2 581	35	27
ミアカルシック	骨粗しょう症	92	109	3	-1
ビスダイン	加齢黄斑変性	82	98	21	12
テグレートル	てんかん	82	98	-15	-18
エクセロン	アルツハイマー病	77	92	7	0
トリレプタール	てんかん	76	90	55	55
レボネックス /クロザリル	治療抵抗性の統合失調症	76	90	3	-4
フォラジール	ぜん息	65	77	2	-13
ホルモン置換療法シリーズ*	ホルモン置換	56	67	-20	-24
フェマーラ	閉経後乳がん	56	67	37	23
ファンビル	抗ウイルス剤	52	62	-15	-18
トップ20 製品トータル		2 883	3 431	26	18
その他の製品		726	864	-6	-14
全製品トータル		3 609	4 295	18	10

2002年度の業績は、一部製品の他セクターへの移管の売り上げに基づいて集計し直した。
 本リリースで用いられている日本円表示の金額は、すべて便宜的に1米ドル=119円の為替レートで米ドルを日本円に換算したものである。これらの換算金額は、このレートまたはその他のレートで米ドルの額を実際に日本円に換えられる額を示すものと解してはならない。